



東本願寺札幌別院

Higashi Honganji

開かれた札幌別院を目指して

別院会館は、全ての部屋を門徒のみならず一般市民に開放しています。

研修会、会議、お茶会、お花、講演会、展示会、コンサート。およそ150台駐車可能な駐車場スペース。子どもからお年寄りまでニーズに合わせてご使用下さい。



本堂での演奏会



会館エントランスホール

越後より札幌へ、 三百年の時を刻む旧御堂

旧御堂は札幌の黎明期より時を刻んできた重厚感溢れる風格を有しています。総檜造りで、内陣の柱、梁の絶妙なバランスが凛とした上質な空間をつくり上げています。

明治4年(1871)縁あって、越後(新潟市)の中浦原郡横越村の光圓寺の改築に伴い江戸時代中期に建てられた旧本堂を貰い受け、移築された札幌で最も古い御堂です。旧御堂は越後での創建以来、今日まで300年を悠に越える、浄土真宗初期の建築様式を伝える貴重な遺構です。



旧御堂



現如上人名号碑

東本願寺第二十二代・莊嚴光院釋現如、札幌別院開基上人の六字名号「南無阿弥陀仏」を正面に右側面に「正覚阿弥陀法王善住持」、左側面に「普共諸衆生 往生安楽国」という天親菩薩の浄土論の御言葉をいただき、親鸞聖人がお勧めになられた、お念仏の世界を顕彰した。

〈浄土は、本願を成就して正覚の阿弥陀となられた如来の慈悲慈愛のお心によって支えられ、住持されている世界であることが示され、その本願の世界である浄土・安楽国に諸々の衆生と共に往生したいと信心を吐露されている〉



平成27年(2015)6月18日建立

正覚阿弥陀 法王善住持

右側面

南无阿弥陀佛

正面

普共諸衆生 往生安楽国

左側面

明治期の現如上人による事績は、何といても札幌御坊の地を此の地に定めたことであり、教団を挙げて北海道開拓・開教を推進する基礎を確立したことである。

次いで「蛤御門の変」で焼失した京都東本願寺の両堂再建事業を、明治二十八年に完遂したことであって、それは我われ北海道の東本願寺門徒のみならず全国の東派門徒にとって新しい時代を画する念仏興隆の象徴となったことである。

しかしそれは北海道に先住するアイヌ民族にとっては悲劇の始まりであったことを、我々は肝に銘じなければならない。



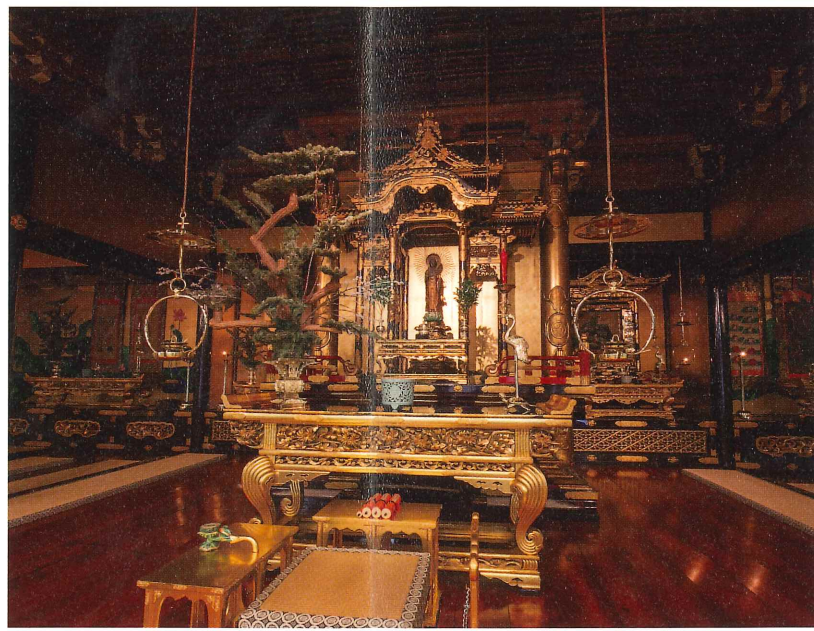
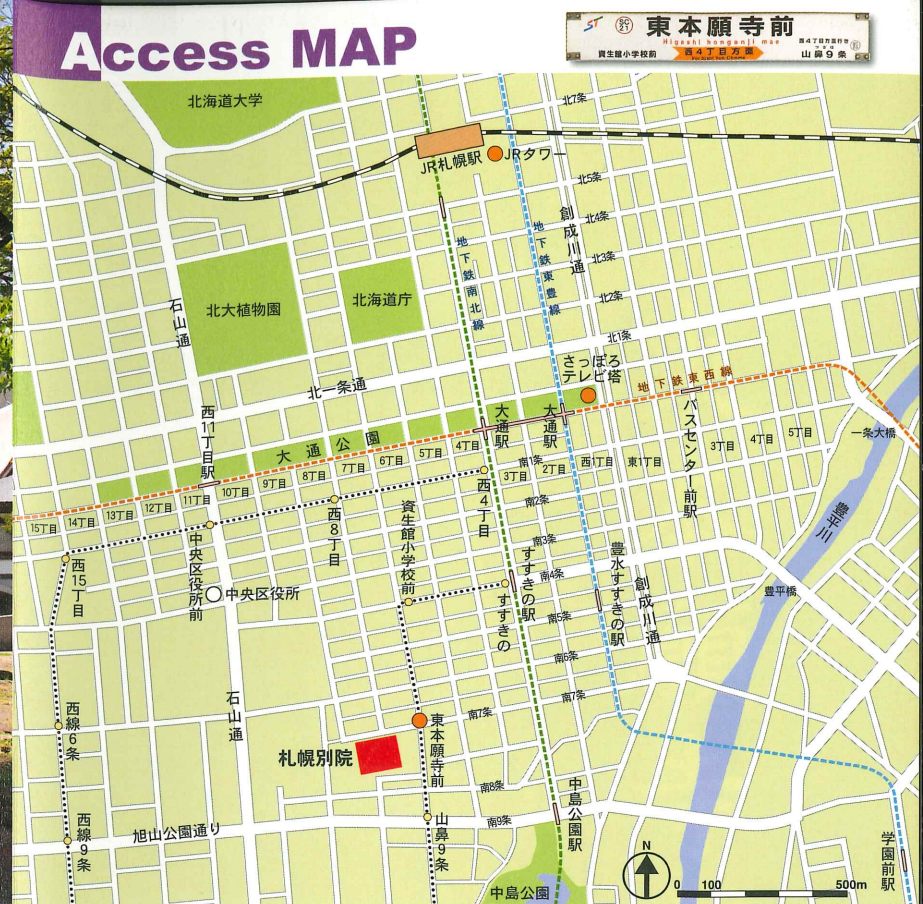


人みな生きらるべし

今、いのちが
あなたを生きている



本堂



本堂の破風

ビオトープ BIOTOPOS

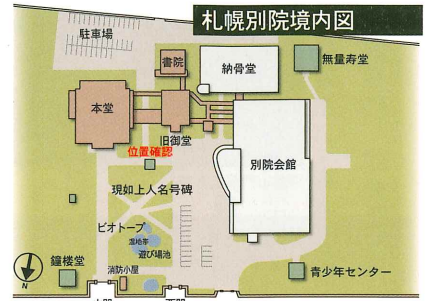
ビオトープとは、バイオbio(生きもの)のトポスtopos(住むところ)という意味を持つ言葉でドイツから始まった自然保護運動です。人間が壊してきた環境をもう一度見直そうという願いが込められています。



オタマジャクシの放流



清掃作業



「南無阿弥陀仏」というお念仏の心を、私たちの平易な言葉で阿弥陀さまにお語りいただくならば「縁あってこの世に生まれたあなた方よ。悩みを克服することもできず、悲しみを生きるしかないあなた方よ。併しながら、みな力強く生きなさい」と、仰っているに違いない。
そうして私たち自身も、如来の大悲心に信頼して「ナムアミダブツと申すほかない身である」ことを、良く知っている。



真宗大谷派(東本願寺)札幌別院

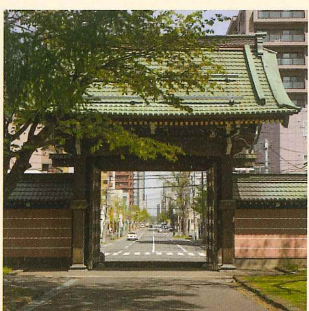
〒064-0807 北海道札幌市中央区南7条西8丁目290番地
TEL: (011) 511-0502 FAX: (011) 521-4339

<http://www.ohigashi.or.jp>

東本願寺前



今も市民に愛され、北海道遺産として残る札幌市電の停留所に「東本願寺前」がある。停留所の存在は、「東本願寺」が地域の歴史的・シンボリック的存在であることを物語っている。別院と共に人々が行き交い「まち」が形成され、現在の繁華街「すすきの」への発展につながった。ずっと変わらずに受け継がれているものがあるから安心する。きつとお寺ってそんな木つとする場所だと思っ。これから紹介するのは札幌の街とともにおよそ140年の時を刻んできたお寺真宗大谷派札幌別院である。



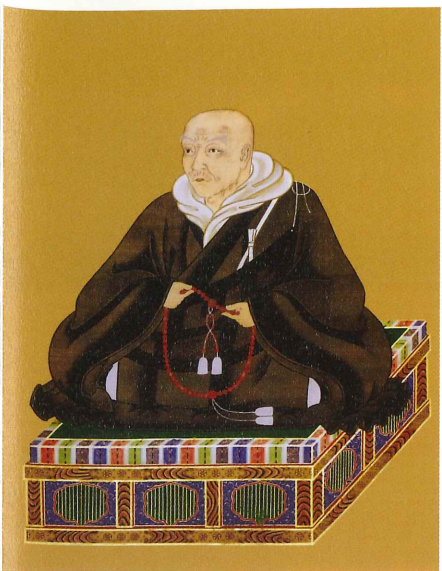
宗祖

親鸞聖人

(1173~1262年)

親鸞聖人は平安末期、動乱の京都に誕生。9歳で出家得度し比叡山にのぼられるが、仏道への問いをかかえて苦悩する中、29歳の時、山を下り、吉水(現在の円山公園)の法然上人の教団に加わられる。そこで聞き取られた一言、「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」の教えに深く帰依し、新ためて他力の念仏者としての道を歩まれる。しかし35歳の時、念仏停止の「承元の法難(1208)」に遭遇し越後・国府(新潟)へ流罪となる。39歳、赦免の後、家族と共に関東へ移り住み、農村の人々と生活を共にし念仏の教えを広められた。

60歳を過ぎてから京都に戻られ、『教行信証』をはじめとする著作に専念され、その生涯を浄土真宗の開頭に努められ、90歳で命終なされた。主な著書としては、『浄土文類聚鈔』『愚禿鈔』『三帖和讃』などがある。



中興の祖

蓮如上人

(1415~1499年)

室町幕府の最盛期に誕生された蓮如上人は43歳の時、本願寺8代を継職され、宗祖親鸞聖人のお聖教を一心に勉強なされた。やがて、各地で一揆がおこり、都では応仁の大乱が発生した。このような世情混乱の時代状況の中、本願寺が果たすつとめとは何か。「当流のこころ」ということを真剣にたずねられた上人は、その求道を通して、近畿・北陸・東海地方で精力的に布教活動を行われたのである。

文明3年(1471)、吉崎(福井)に坊舎を建て、門徒へのお手紙という形で『御文』を書き、念仏の教えをわかりやすく広く人々に伝えられた。また現在、真宗門徒の勤行の基になる『正信偈』・『和讃』を開板されたのである。文明12年(1480)、山科本願寺を建立し、さらに明応6年(1497)、のちに石山本願寺に発展する大阪坊舎を建てられた。このように上人は真宗興隆・教団の確立に尽力された。その後、山科の地に戻り、85年の生涯を閉じられた。



真宗本願(東本願寺/京都市) 御影堂と阿彌陀堂(奥)。御影堂は世界最大の木造建築物。

現如上人と北門開教のあゆみ

北海道開拓・開教と東本願寺

幕末から明治にかけての動乱は、徳川の恩顧を受けていた東本願寺の存在を危うくしました。それを回避するため、自ら願い出る形をとって未開拓の地といわれていた北海道の開拓、布教に取り組んだのです。

明治3年(1870)7月、当時弱冠19歳の東本願寺法嗣大谷光瑩(後の現如上人)は人々と共に渡道し、現在の札幌別院の地に立たれました。これが札幌開教の第一歩です。当時の札幌はまだ原野でした。以後、続々と入植してきた人々にとって開墾作業は、並大抵の事ではなかったと思います。そのような時、お寺の存在は「仏さまの教えと共に生きる」という心の拠り所になったにちがいありません。

以後、東本願寺は正しく札幌の街の発展と共に歩み継がれて来たのであります。

新道切開「本願寺街道」

現如上人と一緒に来道した人々は、まず新道切開工事に取り組まなければなりません。有珠の尾去別(伊達市)から壮瞥、中山峠、定山溪、平岸(札幌)を結ぶ有珠新道は、「本願寺街道」の中心です。この道路は27里(約103km)の道程で総工費は約1万8千両を要したと言われています。また、その他に江差街道改修と軍川から砂原までの新道切開工事も行いました。一方、忘れてならないことは、先住していたアイヌの人々に対してのことです。土地の収奪や労働の強制、日本の風習の押し付け等がアイヌの人々の生活を奪うことにもつながりました。それについては今後とも、アイヌの人々の声をしっかりと受け止め、共生の道を歩んでいきたいと思えます。



現如上人の籠

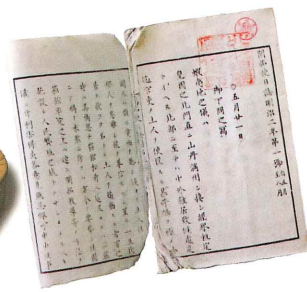
別院発祥 道場建立

現如上人は自ら札幌の地を検分した後、明治3年(1870)7月24日、「勅賜 東本願寺管刹」と記した標木を立て、札幌をあとにしました。残った人々はここを本格的に開教の拠点とするため、さっそく御堂の建立に取りかかりました。与えられた2000坪の土地に、同年10月、奥行4間半、間口6間の仮堂が完成しました。本山より携行してきた一貫代の絵像を御本尊として安置し、ここ札幌の地に、初めて念仏の道場が建立されたのです。翌、明治4年(1871)、越後(新潟市)の光圓寺の日本堂を貰い受け、解体して札幌へ運びました。7月、建立に着手、10月に完工、初めての報恩講が厳修されました。向拝のない萱葺、建坪が64坪であったと伝えられています。

その後、明治24年(1891)、札幌の発展、人口増加に伴い、より大きな本堂の建立を願い、京都の本山を手掛けた伊藤平左衛門の設計により正式な本堂が建てられ、木像の御本尊、宗祖の御絵像などが安置されました。こうして札幌に、北海道開教の拠点が確立されたのです。



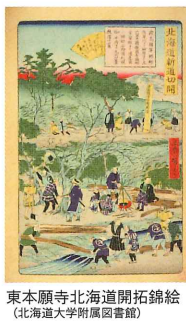
法嗣現如上人



蝦夷地開拓御下問書之写「開拓日誌」(北海道大学附属図書館)



現如上人の下駄



東本願寺北海道開拓錦絵(北海道大学附属図書館)



東本願寺街道起点標碑(伊達市長和町)札幌市南区ホームページ「碑を訪ねて」より



明治24年完成の本堂 北海道大学附属図書館「明治大正期の北海道 写真編」より



親鸞聖人650回御遠忌法要 大正14年

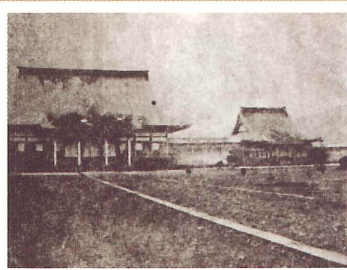


別院山門前の石標

真宗大谷派 札幌別院史

北海道開拓・開教出願調査隊派遣
現如法嗣京都都出發。
滋賀・岐阜・名古屋巡化募財
札幌開教・札幌管刹設立
本堂上棟式 越後より移築・現 旧御堂
初めての報恩講厳修

明治14
1881
「真宗大谷派本願寺札幌別院」と称す
遷仏式を厳修



本堂並びに旧御堂(明治25年撮影)「東本願寺北海道開拓教史」

明治32
1899
蓮如上人400回御遠忌法要

大正3
1914
「山門」落成

大正4
1915
宗祖親鸞聖人650回御遠忌法要



東本願寺札幌別院宗祖聖人六百五十回大御遠忌 北海道大学附属図書館「明治大正期の北海道 写真編」より

大正7
1918
別院創立50周年記念及び
獻如上人25回忌法要

大正14
1925
鐘樓堂落成

昭和22
1947
現如上人25回忌法要

昭和23
1948
蓮如上人450回御遠忌法要
梵鐘再鑄

昭和25
1950
別院創立80周年記念法要

昭和30
1955
現如上人33回忌法要

昭和38
1963
親鸞聖人700回御遠忌法要

昭和44
1969
北海道開教100年・
札幌別院創立100周年記念法要

昭和50
1975
親鸞聖人御誕生800年・
立教開宗750年慶讃法要

昭和56
1981
「無量寿堂」落成

昭和62
1987
鐘樓堂修復・梵鐘再々鑄

平成12
2000
創立130周年記念法要

平成14
2002
別院総合整備事業始まる

平成15
2003
「書院」・「納骨堂」落成

平成16
2004
「札幌別院東本願寺会館」落成

平成17
2005
「本堂」・「旧御堂」修復落成
蓮如上人500回御遠忌・
総合整備事業竣工落慶法要
大谷暢顯門首御親修

平成27
2015
宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要
第二期総合整備事業竣工落慶法要